

# みなかみ町内の先進的な活動を紹介します

## ■赤谷プロジェクト

平成15(2003)年11月に発足した「赤谷プロジェクト」は、みなかみ町新治地区を流れる赤谷川の上流域に広がる約1万ヘクタールの国有林「赤谷の森」を舞台に、生物多様性の復元と持続的な地域づくりを進める取組です。



林野庁関東森林管理局、公益財団法人日本自然保護協会、地域住民で組織する赤谷プロジェクト地域協議会の3者が協働しモニタリング調査や、木材や地域の水源・温泉源など自然資源を供給するとともに、地域住民の原風景を形成し、自然体験や環境教育の場を提供しています。

町内小中学校を対象とした環境教育、観光業の方々と連携した赤谷の森のハイキングマップの作成、地元にある日本のカスタネット発祥の工場や製材工場と連携した赤谷の森の木材によるカスタネット製造など、赤谷の森の豊かさや魅力を伝え、森の恵みを持続的に資源利用するとともに、赤谷プロジェクトの先進的な取組が付加価値となって地域の発展にも貢献するよう活動しています。

## ■奥利根水源憲章

手つかずの自然を今に残しながらも、ダムによる人工湖をその深い渓谷に3つも抱く特異な環境、景観を形作っている奥利根水源地域。貴重な自然環境や生態系の保全と、望ましい利用のあり方が問われる状況の中、町、関係機関、地元住民を中心に自然の保全と人々との持続可能な共生のための指針づくりが始められ、平成15(2003)年9月6日、町内外からの多くの賛同により奥利根水源憲章が制定されました。同時に奥利根水源憲章の歌も作られ、水源地域や下流域の多くの合唱団により歌い広められています。

奥利根水源憲章は「自然と人々の持続可能な共生という基本課題を常に意識し、地域内外の人々が力を合わせ、考え、行動する」をテーマとしています。奥利根水源地域は近年、豊かな自然やダム湖を利用したアウトドア活動が盛んになり、多くの人々が訪れ、地域が元気になってきています。また、豊富な森林資源を活用した自然エネルギーの創出の取り組みも始められ、自然の循環的な利用も進んできました。奥利根水源憲章推進委員会では毎年、奥利根水源地探訪を開催し、地質、土壌、植物、昆虫、鳥類など、テーマごとに詳しい説明を聞きながら奥利根の自然に親しんでもらう活動をしています。



## ■谷川岳エコツーリズム推進協議会

谷川岳エコツーリズム推進協議会は、谷川岳の自然を守りながら、たくさんの方々に安全安心に谷川岳とふれあい楽しんでいただけるよう様々な取組を進めています。平成24年(2012)年6月には、活動の指針となる谷川岳エコツーリズム推進全体構想が全国で3番目、国立公園内では初となるエコツーリズム推進法に基づく国の認定を受けました。また、エコツーリズム大賞(環境大臣表彰)において、第8回(平成25年度)に特別賞、第10回(平成27年度)には優秀賞に輝いています。

全体構想は谷川岳ならではの自然環境、歴史や文化を守り活用しながら持続可能性を探り、訪れた人々と交流を深め広げることで町の経済発展に寄与することを基本方針としています。それに基づき、自然環境モニタリング調査、保全活動、ツアーやイベントの開催及び周知、ガイド研修、施設整備などを実施しています。加えて、近年ではみなかみ町内の小中学生に谷川岳のエコツーリズムを体験してもらう取組も実施しています。

谷川岳では一倉沢エコハイキングや星の鑑賞会、冬のスノーシューツアーなど、谷川岳を知り尽くしたガイドが案内するエコツアーが実施されています。町に住んでいると谷川岳をはじめとするみなかみの自然はあたりまえの存在ですが、実は「こんなにすごいんだ」「知らなかった」ということがたくさんあります。町民のみなさんも谷川岳を知り尽くしたガイドと一緒にエコツアーに参加してみませんか？



# みなかみ

さあ世界へ！

# ユネスコエコパーク

Minakami Biosphere Reserve

3



「昭葉峡(てりはきょう)」

みなかみ町のユネスコエコパーク登録に向けた取組などをシリーズでお伝えします。

### ■ユネスコエコパークってなんだっけ？

世界遺産登録なども行っているユネスコ(国連教育科学文化機関)のプロジェクトの一つで、豊かな自然と人のくらしがずっと続いていくための取組を積極的に実践する地域を登録するしくみです。正式名はBiosphere Reserves(生物圏保存地域)で、日本では親しみやすいように「ユネスコエコパーク」と呼ばれています。現在、120カ国669カ所が登録されており、日本国内では屋久島や南アルプスなど7カ所が登録されています。

### ■ユネスコエコパークの特徴

世界自然遺産は手つかずの自然そのものを登録し、それを厳重に保護していく仕組みであるのに対し、ユネスコエコパークは自然と人が共生していくことを目的とした取組や計画も含めて登録されるものです。ユネスコエコパークの基本理念(「保存機能」「学術的研究支援」「経済と社会の発展」)を達成するために3つの土地利用区分(核心地域、緩衝地域、移行地域)を設定し取組を進めていくことが特徴です。

【第3回 平成28年10月17日発行】

### ■発行・お問い合わせ先

みなかみ町 総合戦略課 エコパーク推進室  
〒379-1393 群馬県利根郡みなかみ町後閑318 TEL 0278-25-5032(直通) FAX 0278-62-3211

2017年夏の登録をめざしています

みんなで進めていこう！

みなかみユネスコエコパーク



Minakami

Planning area for UNESCO's MAB-BR





# ユネスコエコパークへの道

大きなヤマを越えました

平成28年8月12日に開催された日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会人間と生物圏(MAB)計画分科会において、みなかみユネスコエコパークをユネスコ本部へ推薦する旨の決定がなされました。このことにより、みなかみユネスコエコパークの誕生にむけ大きく前進しました。

この委員会で出た意見を踏まえ申請書を修正し、9月9日に最終版の申請書を日本ユネスコ国内委員会事務局の文部科学省へ提出しました。

申請書はその後、外務省を経由して、9月26日にフランスのパリにあるユネスコ本部へ無事到達し受領されました。

来年の夏、ついに「みなかみユネスコエコパーク」が誕生する予定です。



■みなかみユネスコエコパーク全景

## みなかみユネスコエコパーク登録への道のり

年月	内容
平成16(2004)年 9月	「谷川連峰・水と森林防人宣言」月夜野町、水上町、新治村の3つの自治体それぞれが町村合併の理念として宣言。
平成17(2005)年 10月	月夜野町、水上町、新治村が町村合併し「みなかみ町」が誕生。
平成20(2008)年 9月	みなかみ・水・「環境力」宣言 ~水と森林を まもる・いかす・ひろめる力~
平成24(2012)年 10月	綾ユネスコエコパーク(宮崎県)の新規登録を契機に、みなかみユネスコエコパークの検討を開始。
平成26(2014)年 5月	まちづくりビジョン策定委員会の中間報告会において、同委員会からユネスコエコパークを柱としたまちづくりを推進する旨の提案。
7月	みなかみ町役場にエコパーク推進室を設置。
10月	みなかみユネスコエコパーク検討委員会が大学教授、専門家、町民、関係行政機関により組織され、みなかみの自然や文化などの洗い出し、エリア設定、申請書の作成など、みなかみユネスコエコパークの本格的な検討を開始。
平成27(2015)年 8月	日本ユネスコ国内委員長あてユネスコエコパークの登録へ向けた意思表明及び概要申請書を提出。
11月	日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会人間と生物圏(MAB)計画分科会より「平成28年のユネスコへの申請に向けて準備を進めるべきである」との審査結果の通知。
平成28(2016)年 2月	本申請(案)を日本ユネスコ国内委員会事務局へ提出。
8月	本申請書(和文・英文)を日本ユネスコ国内委員会事務局へ提出。
<b>国内推薦決定</b> 8月12日	日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会人間と生物圏(MAB)計画分科会において国内審査が行われユネスコへの推薦が決定。
9月9日	日本ユネスコ国内委員会へ申請書の最終版を提出。
9月26日	ユネスコ本部(フランス・パリ)が申請書を受領。
平成29(2017)年 4月頃	ユネスコBR国際諮問委員会による審査。
<b>登録</b> 6月頃	ユネスコ本部で開催予定のユネスコMAB計画国際調整理事会において審議・決定。

# みんなで進めていこう！みなかみユネスコエコパーク

みなかみユネスコエコパークは、

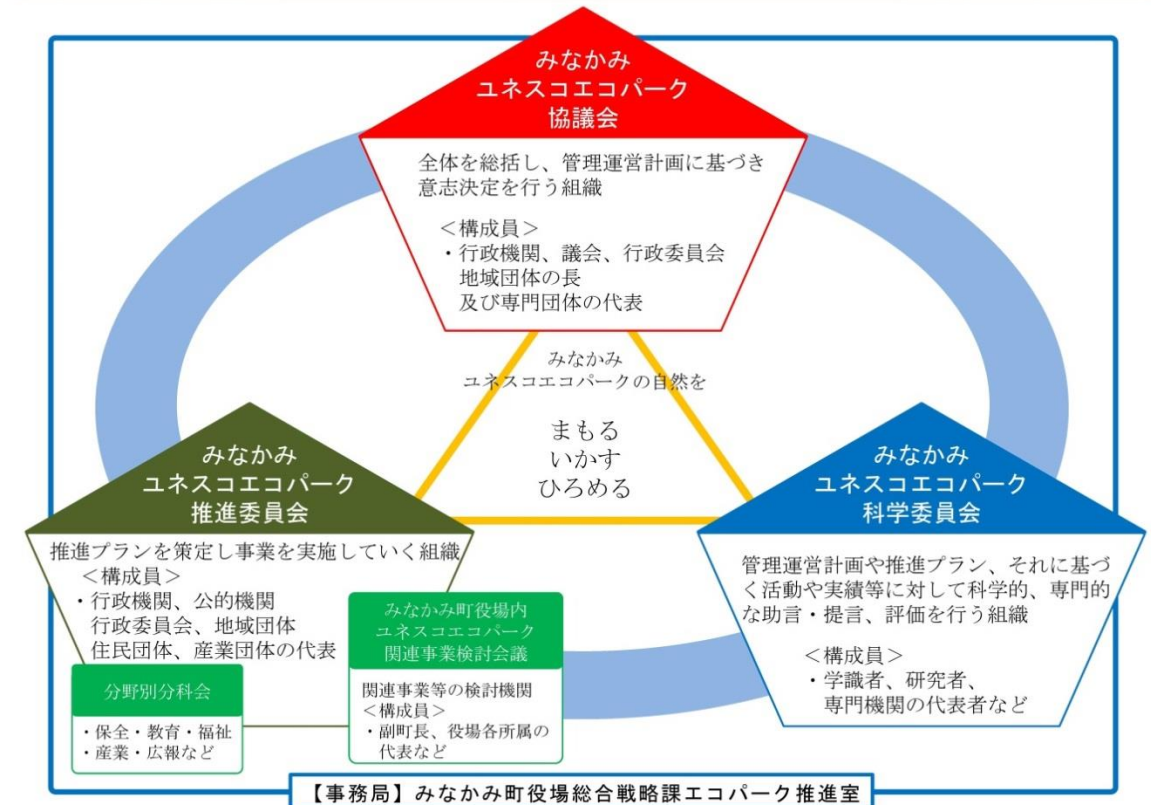
- 町全体が一致団結して自然を活かしたまちづくりを推進していくこと。
- 自然と人間社会が共生する暮らしがずっと続き、郷土愛の醸成が図られ、住みよい町、多くの人が訪れる町として世界中から愛されるみなかみとなること。
- ユネスコエコパークの登録による地域のイメージアップによりブランド力が向上し地域がさらに活性化すること。
- 水と森林を育み、それを「まもる・いかす・ひろめる」力を携えた「人」を育むこと。

などを目的として登録をめざしています。

具体的には、町内小中学校のユネスコスクール化、環境教育の充実、自然環境保全・調査・研究の促進、みなかみの自然を活かした子育て支援の充実、イメージアップ、ブランドアップによる産業活性化、国内外の交流事業の促進などなど、みなかみユネスコエコパーク関連事業を以下の推進体制により検討し進めていく予定です。

すでにみなかみユネスコエコパークのプレ事業として、冊子「みなかみ町の自然と暮らし」の作成、町内小学生の環境学習発表会、木育の推進などが実施されています。

## みなかみユネスコエコパーク推進体制図



■みなかみの自然と暮らしを考えてみよう(小学生による環境学習発表会)



■木のおもちゃで遊ぼう(木育フェスティバル)



■冊子「みなかみ町の自然と暮らし」